泌尿紀要3巻11号
昭和32年11月

泌尿器科領域に於けるアトラキシンの使用経験

京都大学医学部泌尿器科教室（主任　稲田　務教授）
助教授　後　藤　　薫
講　師　仁　平　寛　巳
助　手　片　村　永　樹
助　手　山　崎　　巖

Studies on Urological Application of Atraxin

Kaoru GOTO, Hiromi NIHIRA, Eizyu KATAMURA and Iwao YAMASAKI

From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyoto University
(Director : Prof. T. Inada)

The following results were obtained upon administration of Atraxin. Atraxin was administrated on two cases of psychogenic dysuria which may be resulted from neurosis whithout disorders of urinary tract and neurogenic dysfunction. One case was improved, the other case effectiv. Sound sleep has been enjoyed by 22 cases out of 28, by appling Atraxin in the previous evening of the day when operation was made. By appling Atraxin to two nightworkers for the purpose of giving the day sleep, fatigue has been found retrieved of by some sleep effected by Atraxin.

緒　　言

最近トランキライザーとして総称される各種の新鎮静剤が合成され紹介されているが，メプロバメートは最も注目をあびている薬剤である．この薬剤は不安状態や緊張状態の治療によく奏効し，その二次的な身体症状を除去すると云われている．作用機転は視床への選択的作用と脊髄神経接合部に抑制的に働き，自律神経系に作用しないので血圧，呼吸に影響がなく，悪心，嘔吐，めまい等を来たさないとされている．著者等は邦製のメプロバメートたるアトラキシン（第一製薬）を入手して，神経症によると思われる排尿異常，手術前夜の患者の不安感の除去等に応用して満足すべき結果を得たので茲に報告する．

精神因性排尿異常に対するアトラキシンの効果

尿路に器質的病変及び神経支配の障碍を証明出来ず，神経症にて起つたと考えられる所謂精神因性排尿異常2例に対するアトラキシンの効果を述べる．

第1例　29才，♀．保母．

初診：昭和32年1月14日．

診断：精神因性尿閉．

現病歴：約10年前より頻尿（昼間1～2時間に1回，夜間1～2回）があり，昨年6月頃より頻尿の程度が強くなり殊に夜間が著明となつた．7月下旬にプロバンサイン錠（1日3錠）を服用した所，5日目頃より次第に排尿困難となり7日目には完全に尿閉を来たすようになつた．プロバンサインの服用を中止しワゴスチグミンの注射をうけ3日目より自然排尿を行えるようになつた．再びプロバンサイン錠（1日2錠）を服用した所又漸次に排尿因難を来たし尿閉となり，ワゴスチグミンの注射をうけたが今回は効果なく1日2～3回の導尿をうけて来た．

現症：体格中等度，栄養良．両腎下極触れるも圧痛なし．膀胱は恥骨上3横指迄膨隆，これは導尿により消失．

膀胱鏡検査．膀胱粘膜は正常，膀胱三角部は軽度に充血，膀胱後壁に軽度の肉柱形成を認む．インジゴ青排出両側共に正常．

神経学的所見．膝蓋腱反射，アヒレス腱反射稍々亢進の他には器質的な神経障碍は証明されなかつた．脊髄造影撮影にて変化なし．血清ワ氏反応(−)．

膀膀内圧曲線は緊張減退膀胱を示した．

治療経過：副交感神経刺戟剤ウレコリン錠を内服せしめたが，4日目に1回，9日目より4日間1日に1～2回の自然排尿があつた以外は導尿を必要とし殆んど効果なかつた．カテラン氏注射，経尿道的膀胱頸部電気切除術等も効果なく，精神科受診にて神経症の診断をうけた．よつてアトラキシン錠（1日3回2錠宛）を服用せしめた所，2日目より1日3～5回の自然排尿があり，3日間続いたが，又尿閉となり爾後6日間続けたが効果なく中止した．其後精神科に転科せしめて精神科的療法により治癒した．

効果判定：有効．

第2例　17才，♂．学生．

初診：昭和32年3月23日．

診断：精神因性排尿遅延．

現病歴：数年前より排尿遅延を来たすようになり，特に人が居ると著明である．

現症：膀胱鏡所見．膀胱粘膜正常，インジゴ青排出両側共に正常．尿道撮影にて尿道正常．器質的な神経障碍はない．

治療経過：アトラキシン錠（1日3回2錠宛）11日間の服用により排尿遅延の消失をみるようになつた．

効果判定：著効．

前記2例ともに，泌尿器科諸種の検査にて変化なく，又中枢及び末梢神経の器質的病変を証明出来ない排尿異常である．第1例は頻尿のために副交感神経節遮断剤を服用した所，尿閉を来たしたもので，最初ワゴスチグミンが奏効していたが次第に効果がみられなくなり，当科へ入院したものである．膀胱内圧測定にて緊張減退膀胱であつたので，副交感神経刺戟剤ウレコリンを使用したが殆んど効果なく，カテラン氏注射，膀胱頸部電気切除術等も効果なく，精神科にて神経症の診断を受け，精神因性尿閉と考えた．よつてアトラキシン療法を行つて数日間の奏効をみたが，又効果がみられなくなり結局精神科に転科せしめた．本症に関しては最近辻氏等は自験例と詳細な文献的考察を行つているが，Cohn の positive symptom として①肉柱形成，②膝蓋腱反射亢進，③膀胱内圧低下を挙げている．著者等の症例もこの3症状を有しており，精神因性尿閉と考えられるものである．本症例に就ては別の機会に詳細に報告する予定である．第2例は外来患者にて詳細な検索を行い得なかつたが，問診にて神経症と思われる症状を有し，神経因性排尿遅延としてアトラキシン療法を行い著効を得た．本例は第1例の軽度なものと考えられる．

2例ともアトラキシンによる副作用を経験しなかつた．

手術患者に対するアトラキシンの効果

手術患者は医師が手術に対して危険がなく心配する必要のない事を説明しておいても，翌日の手術を心配して不安感をいだき安眠できないものが多い．斯かる症例にアトラキシンを投与した睡眠効果を述べる．

手術前夜の就床時にアトラキシンを2錠服用せしめた所，28例中22例は睡眠効果良好にて安眠を得ることが出来，6例は睡眠効果不良であつた．安眠を得た患者は翌朝覚醒時にはねむけがなく，爽快感を述べたものが多く，クロルプロマジン，バルビツレート等にてみられる不快感，頭重感等はなかつた．睡眠効果不良の6例にはアトラキシン服用の増量が望ましいと考えられる．

夜勤者の昼間睡眠に対するアトラキシンの効果

当教室の看護婦が最近3交代制となり，深夜勤務後の翌日における昼間睡眠不足にて疲労感を訴えるものがあり，2例にアトラキシンを投与した．2例ともアトラキシン4錠服用後ねつきはよく15～30分にて入眠し，ねむりの深さは深く，8～10時間の熟睡を得て起床時の気分は爽快であつた事を述べた．

石井氏，佐藤氏は夫々自己の工場に於ける夜勤作業者の昼間睡眠が不充分にて疲労が累積して作業能率が低下することに対して，アトラキシンを服用させて多数例に詳細なる検討を行い，何れも夜勤者の昼間睡眠を好転させ，自覚疲労の快復に相当の効果あることを報告している．

結　　語

1）尿路の器質的病変なく，又尿路の神経支配の障碍を証明出来ず，神経症に起因すると考えられる精神因性排尿異常2例に，アトラキシンを投与して1例著効，1効有効の結果を得た．

2）手術前夜にアトラキシンを投与して，28例中22例に睡眠効果良好にて安眠を得ることが出来た．

3）夜勤者の昼間睡眠の目的に2例にアトラキシンを投与して，熟睡を得ることが出来て疲労感の快復に効果を認めた．

擱筆に臨み御指導，御校閲を賜つた恩師稲田教授に深く謝意を表します

文　　献

1）辻，黒田，渡井：日泌尿会誌，**48**：187，昭32．
2）石井：Medical Digest，32　5，昭32．
3）佐藤：Medical Digest，33：4，昭32．